

第1回 港湾における i-Construction 推進委員会

議事概要

日時：令和2年11月13日（金） 13：30～15：30

場所：（一財）港湾空港総合技術センター 6階会議室 および Web 会議

1. 主な議事

○事務局より、本年度の委員会での取り組み内容等について説明をした後、委員による意見交換を行った。

2. 主な意見

○浚渫工の自動化は、ICT 化の最終形の位置づけとなるが、その実現にあたっては機械メーカーの技術開発によるところが大きく、浚渫工に限らず港湾工事においては土工等の陸上工事と比較して市場規模が限定的であるといった特殊性が技術開発上の課題となる。

○ICT 施工における施工履歴の検査への活用は、どのような履歴データが取得できるのかということや、履歴が活用できる工種を検討する必要等があるが、監督・検査の効率化につながるものであることから積極的な取り組みを望む。

○ICT 施工については、ブロック据付工には前段階の工種として製作工があるように、1つの段階だけでなく前後の段階も意識して、プロセス全体としての効率化を考えていくことが必要。

○情報プラットフォームは、施工段階では入力した BIM/CIM データのフィードバックによる監督・検査の効率化等が図れると考えられるが、設計段階では入力データの業務へのフィードバックの姿がイメージしにくいので、今後の検討を望む。

○情報プラットフォームの構築にあたっては、本年度はパイロット事業の位置づけで色々な課題が出てくると思われるが、労力と時間とのバランスを考え、工事情報をビッグデータとして残していくという観点にて、受発注者で意見交換しながら進めていくべき。

○i-Construction を推進していくためには、機器の性能等の理由により現状で進みづらい部分をどのように進めていくのかを考える必要があることから、各種基準類の作成や改定だけでなく、関連する現行の基準類の課題や、現在、受発注者で取り組んでいる施工や調査測量の技術開発の内容等を具体的に整理し、検討すべき事項を明確にすべき。

○当委員会の目的は i-Construction の推進であるので、ロードマップには ICT や BIM/CIM だけを推進していくという観点ではなく、プレキャスト部材の活用や、安全管理の向上、人材育成の促進、ハードとソフトの技術開発の推進等といった効率化に寄与する取り組みも含めて記載することが必要。

以上